

BCG個別接種開始 Q & A 【医療機関向け】

個別接種開始について		
	問	回答
1	どこで接種できますか？	東大阪市内の委託医療機関で接種可能です。医療機関へ予約のうえ接種してください。委託医療機関一覧は東大阪市のウェブサイトへ掲載しています。
2	委託医療機関へ登録したいのですが、どうすればいいですか？	新規の登録については、感染症対策課（072-960-3805）へお問い合わせください。
3	BCG予防接種日を設定する際に注意すべきことはありますか？	コッホ現象をはじめとする副作用への対応が適切に行えるよう、大型連休や長期休暇（年末年始）の前などは接種日を設けないようご配慮をお願いします。
4	BCG予防接種の予診票はどこで入手できますか？	東大阪市内の各医師会へ備えておりますので、医師会事務局にてお受け取りいただき、委託医療機関より市民へお渡し願います。
BCGワクチンについて		
	問	回答
5	BCGワクチンの効果は？	BCGは結核を予防するために接種するワクチンです。乳幼児期に接種することにより、結核の発症を52～74%程度、重篤な髄膜炎や全身性の結核に関しては64～78%程度予防することができるといわれています。その効果は、約1か月後には免疫ができ、10～15年程度続くと考えられています。
6	BCGと他の薬剤との相互作用について	副腎皮質ステロイドと免疫抑制剤を全身投与（内服や注射）している時はBCG接種はできません。これらの薬剤を大量または長期間使用した場合には、薬剤中止後6か月程度経過した後の接種となります。なお、ステロイド外用剤のみ使用している場合は、接種場所に湿疹等がなければ接種できますが、接種部位への使用は、当日は避ける必要があるため、ステロイド外用剤の使用中止の時期に関しては事前に保護者へご指示ください。
7	懸濁液を作る際の注意点は？	アンプル開口の際に使用したアルコールが微量でもアンプル内に入るとBCGが凝集し懸濁できなくなりますので、アルコールが十分乾燥してから開口します。アルコールが混入した場合、そのアンプルは使用できません。また、懸濁後は力価の低下や雑菌の混入を防ぐため、直射日光に当たらないように注意し、懸濁はその都度実施し作り置きはしないようにしてください。
定期接種の対象者について		
8	定期接種の対象者は？	生後1歳に達するまで（1歳の誕生日の前日まで）が定期接種の対象です。標準的な接種期間は、生後5から8か月に達するまでです。
9	結核の治療を行った児は定期接種の対象となりますか？	結核にすでに感染していることが分かっている場合には定期接種の対象になりません。ただし、BCG接種歴のない児の場合、感染診断が陰性であっても、ウィンドウ期を考慮して治療を行う場合があります。ウィンドウ期を脱したのちの検査で陰性であれば、治療を終了し、BCG接種を実施する場合があります。その際、児が1歳までであれば、定期予防接種として実施できます。詳しくは、感染診断をした主治医へお問い合わせいただくか、感染症対策課までご連絡をお願いします。
10	ステロイド外用剤を塗布している児への対応は？	ステロイド外用剤はワクチンの効果を失わせるため、BCG接種部位（両上腕外側部）への使用は当日は避ける必要があります。BCG接種のためのステロイド外用剤の中止期間は、処方医より保護者へご指示ください。
11	副腎皮質ステロイドを使用中にBCGワクチン接種はできますか？	副腎皮質ステロイドは免疫抑制作用があるため、内服や注射の使用中は接種を避けてください。また、大量あるいは長期間（2週間以上）使用した時には薬剤の中止後6か月程度経過したのちに接種ください。ただし、ステロイド外用剤の局所的な使用、吸入薬、点眼薬、点鼻薬の場合は全身的な免疫に影響を与えていなければ接種可能です。

12	アトピー性皮膚炎に罹患している小児へのBCG接種はできますか？	BCGワクチンの接種部位がジクジクしている状態の場合は、皮膚の状態が改善するまで接種はお控えください。ステロイド外用剤治療を行っている場合、皮膚の状態がよくなり、使用を中止してから接種を行います。ただし、広範囲・長期にわたる使用により全身性免疫抑制状態にあると判断されるような場合には接種を見合わせます。なお、接種後局所には当分の間（局所反応が治るまで）外用ステロイドは使用できません。
13	予診票の「生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった方がいたか」が「はい」の場合の対応は？	感染症対策課（072-960-3805）へご連絡ください。接種の可否については、東大阪市保健所に判断いたします。疑わしい場合には事前に保護者より感染症対策課へ問い合わせをするようご指示ください。
接種の実際について		
14	接種部位から出血している場合は？	針痕部位周辺に付着している懸濁液は自然乾燥する必要がありますので、その周辺の血液も拭き取ることなく、自然乾燥をさせてください。
15	接種部位の間違いや擦過傷を起こしてしまった場合の対応について	接種の間違いや擦過傷が生じた場合には、感染症対策課（072-960-3805）への報告が必要です。（他のワクチンの誤接種と同様に）擦過傷を起こした場合には、ただちに保護者へ今後の経過（腫脹など強い反応が見られる等）について丁寧に説明し、経過観察が必要です。
16	接種部位の変更を要望された場合の対応は？	BCGワクチンは、上腕外側のほぼ中央部に接種するものとされており、その他の場所への接種は「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」上認められていません。また、肩の部分に接種を行うとケロイドを生じやすいことが報告されています。定められた部位への接種をお願いします。
17	BCGワクチンの副作用は？	リンパ節の腫れや局所・全身の皮膚症状などの比較的軽度な局所反応は一定の頻度で見られますが、自然軽快することが多いです。稀に骨炎や全身性のBCG感染症、アナフィラキシーなどの報告があります。重大な副作用については専門医による診断治療が必要です。
18	コッホ現象とは？	BCGワクチンは、通常接種から2週間程度経過すると、針の痕に一致して発赤や硬結が生じ、その後化膿して痂痂（かひ）化します。結核に感染している人にBCGワクチンを接種した場合、このような症状が接種後1週間以内（多くは3日以内）に見られることがあり「コッホ現象」とよびます。コッホ現象を強く疑う場合には、接種から遅くとも2週間以内（1週間以内が望ましい）にツベルクリン反応検査を実施し、感染の有無を調べる必要があります。コッホ現象を疑われる場合には、コッホ現象疑い報告書をご記入のうえ感染症対策課（072-960-3805）へご連絡をお願いします。